

## 支所発地域力向上支援金事業実施報告書（自己評価）

令和 3 年 2 月 26 日

地区名	川中島町
事業名	まちなか探検をして防災マップをつくろう
団体名及び 代表者名	(団体名) Mamas Hands (代表者名) 山岸 里絵 (連絡先) 090-7202-2132

## ■事業概要

・川中島町公民館、川中島分館、中津分館、御厨分館にて1回ずつ、小学生以上の親子を対象に会場周辺を実際に歩き、防災マップを作成する。	【総事業費】 109,944 円
・自分達の住むまちの身近にある危険な場所や防災に関する設備・施設をまちを探検して確認。その結果を子どもの視点・意見・感性でマップにまとめ、地域への関心と防災への意識を高める。	【補助金額】 109,000 円

## 【活動写真】

別添付の通り	
--------	--

※資料等ある場合は添付する。

## ■事業効果（目的の達成度・地域への貢献度等について）

<p>○それぞれの地域特性に応じた災害リスクを学び、実際にまちを探検することで楽しみながら自分達の住むまちの危険と備えについて知る事ができた。みんなで協力してマップを作ることで、まちの安心と防災への関心を高める結果につながった。また、本事業を通じて学区・年齢が異なる子ども達が知り合い交流することができた。</p> <p>2020年9月19日参加者 子ども5名、大人3名（御厨公民館）</p> <p>2021年1月23日参加者 子ども9名、大人4名（川中島公民館）</p> <p>（2020年10月に予定していた中津川分館での開催は申込者都合による参加辞退の為中止、11月予定の川中島分館での開催は長野市内での新型コロナ感染者数の増加により中止）</p> <p>○当団体の活動を知った川中島小学校よりお声がけをいただき、4学年児童に向けて本事業と同様の防災学習を行った。安全性を考慮し実際のまちなか探検は行わず、事前に準備した通学路の画像を利用して、災害を意識した視点でまちを確認できるようにした。もしもの時の学校内でのリスク、通学路のリスクを具体的に伝えたことで防災について考えるよいきっかけとなったと4学年担当の先生方に好評価をいただくことができた。本事業を行うことで小学校への防災教育につながり大変有意義な活動とすることができた。</p> <p>○子ども達が楽しく理解しやすいよう MamaHands オリジナルで作成したスライドで災害について学習し災害時に起きるかもしれない事・その際どのように自分の身を守れば良いか等を子供たちに伝えることができた。</p> <p>○学習では各会場周辺の小学校で使用されている実際の通学路に潜む危険箇所を例として挙げ、参加者により災害を自分ごととして捉えてもらうことができた。</p>
---

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

■自己評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の実施			○	
事業の効果	○			
特記事項 (評価理由等)	<p>・本事業を通じて川中島小学校への防災教育に関わらせていただく事ができた。来年度以降も継続した防災教育の打診を頂戴している。(小学4年生の国語で学習する「もしものときにそなえよう」という単元の事前学習として)</p>			

■今後の取組予定

防災マップ作成は今後も継続して活動をしていく予定。

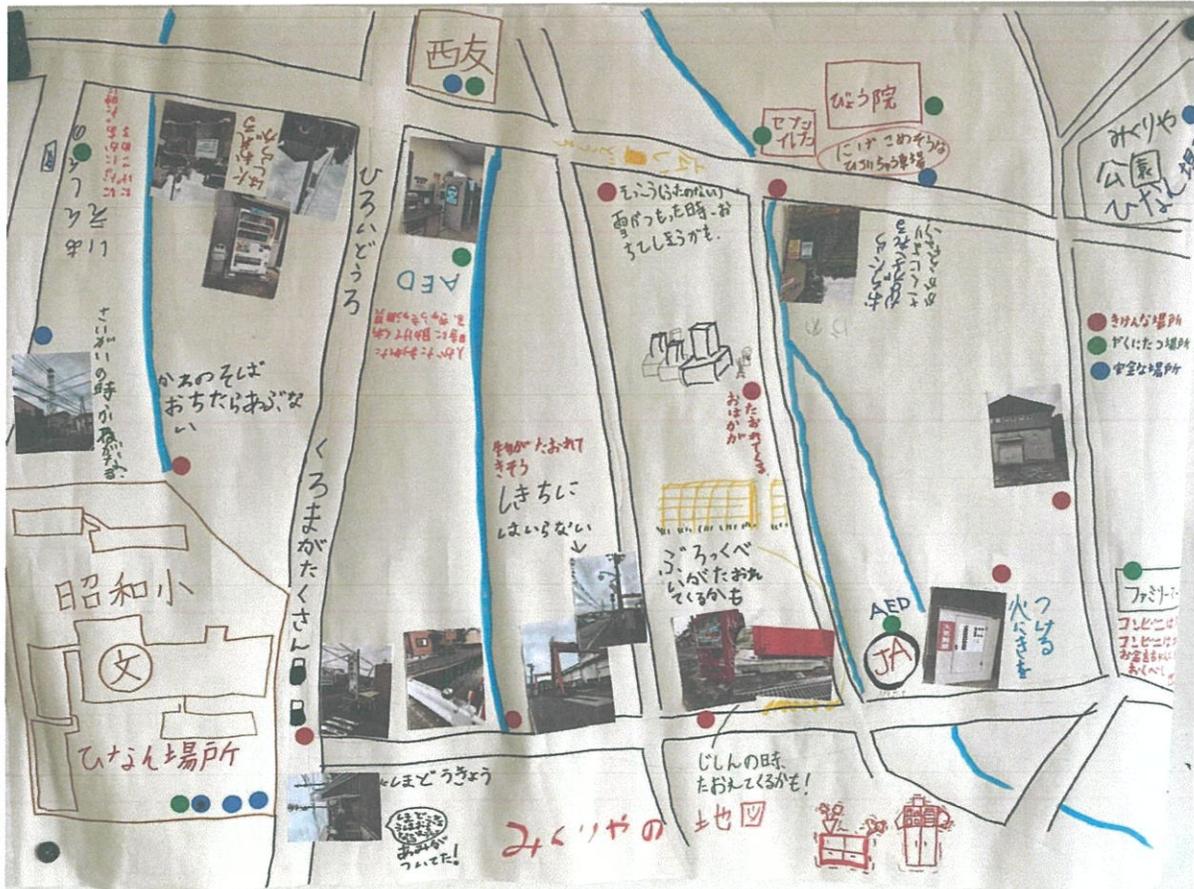
また、家庭内での防災・備蓄について家族で考えるワークショップ等の開催を計画している。

# 活動風景

■9月19日(御厨公民館)



作成したマップ



■1月23日(川中島公民館)



作成したマップ



■10月2日（川中島小学校）



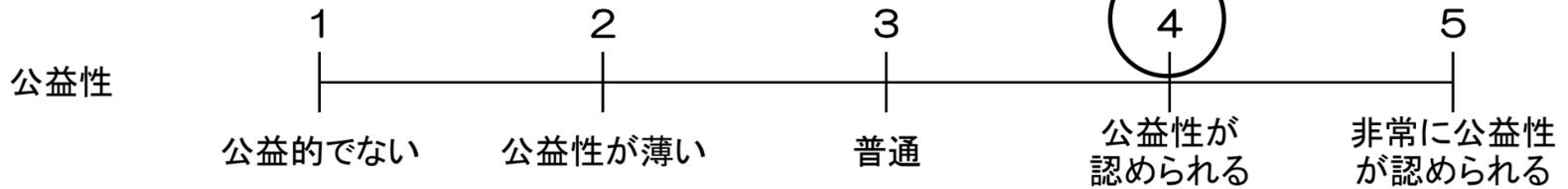
支所発地域力向上支援金 事業評価（川中島支所）

事業区分

安全・安心活動

評価項目

① 不特定多数者の利益また地域の利益につながる活動である



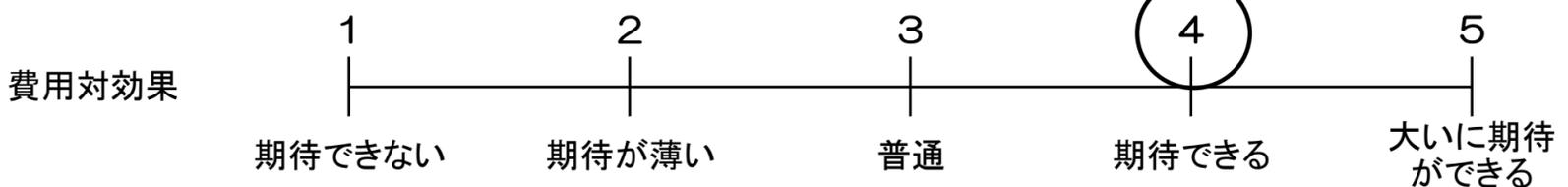
② 予定通り目的を達成している



③ 活動効果の継続性をどの程度期待できる



④ 費用に対して効果が期待できる



支所長の総合評価

令和元年東日本台風災害を契機に、市内では防災意識が高まっています。ママハンズは、炊き出し支援チームの一部メンバーが、子どもたちを対象に防災意識の向上を図ろうと結成されました。当初は、年4回、実際にまちを探検しながらマップを作る計画でしたが、コロナ禍により、2回の開催となり、内容も一部変更しました。

参加した子どもたちは学区及び年齢が異なりましたが、皆で協力してマップを作ったり、オリジナルで作成したスライドを活用しながら、防災への関心が高まったものと思われます。また、団体の活動を知った川中島小学校では、4年生を対象に防災学習を実施し、学校の防災教育に関わることができました。コロナ禍の中、多くの者が集まって活動することが困難な1年でしたが、活動メンバーは8名に増え、事業の実施基盤は整いつつあると考えます。

今後は、防災マップの作成を継続するとともに、家庭内での防災や備蓄について、家族で考えるワークショップの開催を計画しているとのことです。まちの危険箇所を子どもたちと探検し、防災について学びながら、更なる防災意識の向上が図られることを期待します。

なお、継続的に活動していくためには、活動資金の確保や多くの住民に参加いただくための広報活動が課題であると考えます。